

鹿児島県指宿市におけるイモゾウムシ およびアリモドキゾウムシの緊急防除と根絶

農林水産省門司植物防疫所

は じ め に

平成 18 年 8 月、鹿児島県指宿市でサツマイモの害虫として知られるアリモドキゾウムシが発見され、さらに防除中の平成 20 年 11 月、本土では初となるイモゾウムシの発生が確認された。このため、農林水産省は植物防疫法（昭和 25 年法律第 151 号）に基づく緊急防除を実施し、鹿児島県と連携して徹底した調査および防除を行った。その結果、両虫の根絶を確認し、平成 24 年 3 月 19 日をもって緊急防除を終了したので、その概要を紹介する。

I 発生から緊急防除までの経過

平成 18 年 8 月、鹿児島県が指宿市に設置していた侵入警戒調査トラップ（フェロモントラップ）に、アリモドキゾウムシ雄 1 頭が誘殺された。直ちに鹿児島県、指宿市、門司植物防疫所がフェロモントラップの増設などにより周辺の発生調査を行った結果、誘殺地点から南西に約 2 km 離れた地区において、捨てイモおよびノアサガオ等にアリモドキゾウムシが寄生していることが確認された。このため、住民に対しサツマイモ栽培の自粛を要請するとともに、寄主植物の除去および薬剤散布等による防除が行われた。

さらに防除中の平成 20 年 11 月には、同市内でイモゾウムシが新たに発見されたことから、発生調査を行った結果、サツマイモ圃場を中心に広くイモゾウムシが発生していることが明らかになった。

これを受け、農林水産省はイモゾウムシおよびアリモドキゾウムシ（以下「イモゾウムシ等」という。）のまん延防止のため、平成 21 年 8 月 20 日から植物防疫法に基づく緊急防除を開始し、イモゾウムシ等の発生区域を含む約 927 ha を防除区域に指定し（図-1、下図の太い点線範囲内）、寄主植物の除去や移動禁止等の措置を実施した。

II 防除体制の整備

イモゾウムシ等の発見を受け、門司植物防疫所、鹿児島県および指宿市で構成する「指宿地区特殊病害虫防除対策会議」を設置し、調査・防除方針の検討を行った。また、防除に対する市民への理解促進を図るため、指宿市、JA、酒造組合、商工会議所、観光協会および公民館連絡協議会等の地元関係機関の代表者からなる「指宿市特殊病害虫防除対策協議会」が設置された。さらに、寄主植物除去による防除を徹底するため、防除作業を専属に行う「イモゾウムシ等防除班」が地元市民約 30 名を雇用し組織された。

III 根絶までの経過

緊急防除は、寄主植物を除去する方法で行われ、サツマイモ圃場では掘り取りと薬剤散布、ノアサガオ等の野生寄主植物の抜き取り、刈払い、焼却および除草剤散布等による防除が繰り返し実施された。また、イモゾウムシの発生区域では、外周部分から内側に向けて順次寄主植物を除去することで、外部への分散防止を図った。寄主植物が確認された地点は最終的に約 1,500 地点にのぼり、これら各地点における防除の進捗状況は進捗の程度に応じて 1（寄主植物の発見）から 8（除去完了）まで数値化して管理し、これにより防除の徹底・効率化を図った。

これら防除にあたっては、いったん除去したノアサガオなどの再発生や、それまで発生していなかった場所に実生ノアサガオが発生するなどしたため、その都度繰り返し除去が行われ、作業には大きな労力を要した。また、指宿市は防除区域内でのサツマイモ栽培を禁止する市条例を制定し、防除を支援した。これらの防除の結果、イモゾウムシは同 21 年 12 月以降、アリモドキゾウムシは同年 7 月以降発生が見られなくなった。

このため、平成 23 年 2 月から同年 8 月まで門司植物防疫所と鹿児島県が連携して防除効果確認調査を行った。

防除効果確認調査は、「寄主植物調査」、「イモトラップ調査」、「フェロモントラップ調査」により実施した。具体的には、寄主植物調査は、防除区域内の約 1,000 地点を巡回し、イモゾウムシ等の寄主植物であるサツマイ

Emergency action and eradication on West Indian Sweetpotato Weevil and Sweet Potato Weevil in Ibusuki city, Kagosima prefecture. By Moji Plant Protection Station

（キーワード：指宿市、緊急防除、イモゾウムシ、アリモドキゾウムシ）

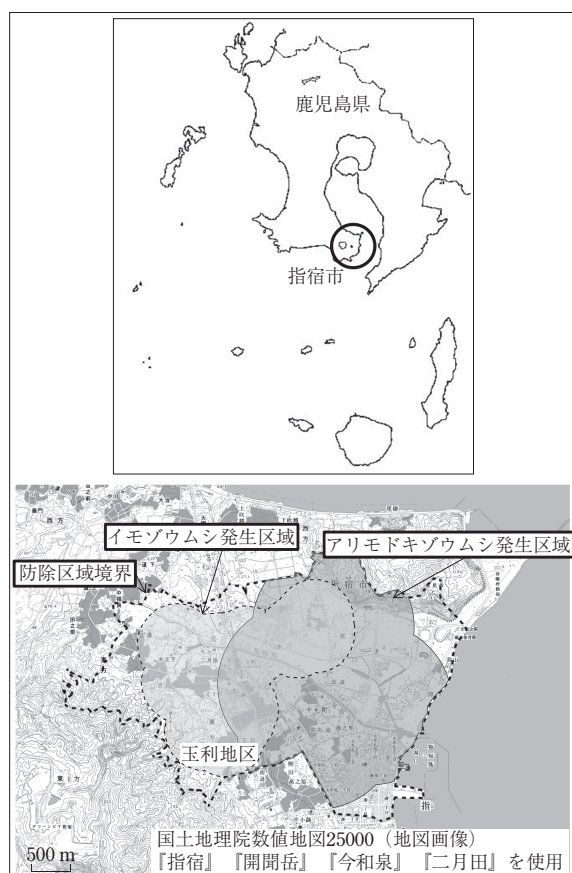


図-1 鹿兒島県指宿市の位置（上図）と緊急防除の防除区域（下図：太い点線範囲内）。

モやノアサガオ等採取して切開し、イモゾウムシ等の寄生の有無について調査した。イモトラップ調査は、防除区域に545基のサツマイモ塊根を誘引源とするトラップを設置し、4週間後に回収して保管後、切開してイモゾウムシ等の寄生の有無を調査した。フェロモントラップ調査は、誘引剤および殺虫剤を用いたトラップを防除区域に383基設置し、2週間ごとにイモゾウムシ等の誘殺の有無を確認した。

防除効果確認調査の結果、イモゾウムシ等は発見されなかったため、十分な防除効果が得られたと判断し、平成23年8月3日からイモゾウムシ等の駆除確認調査を行った。駆除確認調査は、防除効果確認調査と同様の方法で行い、アリモドキゾウムシは平成23年11月22日まで、イモゾウムシは平成24年2月15日まで実施した結果、イモゾウムシ等は発見されなかった。このため、農林水産省は、指宿市においてイモゾウムシ等は根絶されたと判断し、平成24年3月19日付けをもって緊急防除を終了した。

おわりに

鹿兒島県はサツマイモ産地として知られ、中でも指宿市を含む南薩地区は国内でも有数の生産量を誇っている。今回のイモゾウムシ等の根絶達成により、懸念された被害拡大を阻止できたことは、鹿兒島県および指宿市による地道な防除対策と地元住民の理解・協力があって成し得た成果といえる。指宿市では、根絶後もイモゾウムシ等の再侵入に備えるための体制が引き継がれることとなっているが、イモゾウムシ等の根絶が確認されたことによりサツマイモをはじめとする農業生産の一層の振興が期待される。

発生予察情報・特殊報 (24.4.1～4.30)

各都道府県から発表された病害虫発生予察情報のうち、特殊報のみ紹介。発生作物：発生病害虫（発表都道府県）発表月日。都道府県名の後の「初」は当該都道府県で初発生の病害虫。

※詳しくは各県病害虫防除所のホームページまたはJPP-NET (<http://www.jpnp.net/jp/>) でご確認下さい。

- メロン：メロンモザイク病 (CMV-lag) (青森県：初) 4/13
- レタス：レタス根腐病 (レース1) (青森県：初) 4/13
- インパチェンス、ニューギニアインパチェンス、ゼラニウ

ム、トレニア：インパチェンスえそ斑紋病 (広島県：初) 4/17